

令和6年度

第69回ユニセフ学校募金趣意書

みんなで作ろう 子どもの権利が 守られる世界

平素よりユニセフ学校募金に、ご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

第二次世界大戦の被害を受け、十分な食べ物も手に入れることのできなかった日本の子どもたちに、ユニセフ（国際連合児童基金）は、1949年からの15年間、粉ミルクや衣類の原料となる原綿、医薬品など、当時の金額で65億円もの支援を行いました。その支援へのお礼の手紙に、子どもたちが添えた大切な10円玉。これが日本におけるユニセフ募金の始まりです。子どもたちのあたたかな思いから始まったユニセフ学校募金は、今年度で69回を数えます。

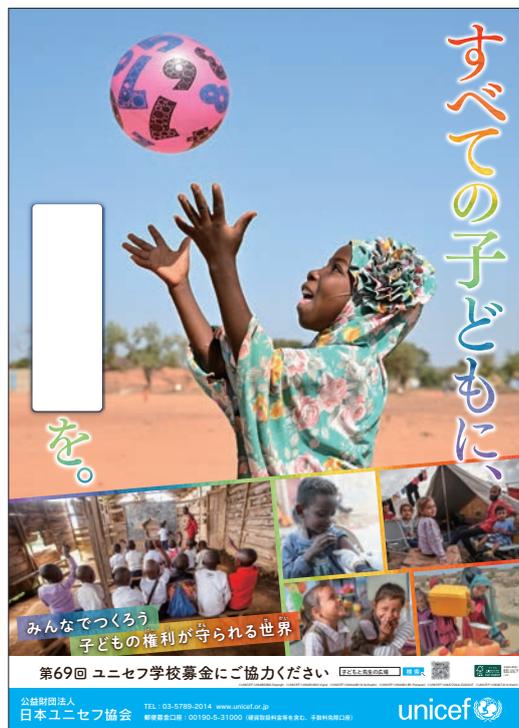
ユニセフは、「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」を基盤として活動しています。すべての子どもたちに人権があることを国際的に定めたこの条約は、1989年に国連で採択され、今年で35周年を迎えます。これまでに、日本を含む196の国と地域が締結する、世界でもっとも広く受け入れられている人権条約です。世界中のすべての子どもたちの権利の実現を願い、第69回ユニセフ学校募金は「みんなで作ろう 子どもの権利が守られる世界」をテーマに活動してまいります。

近年、世界に広がる気候変動の影響は、国の境に関係なく顕著となり、干ばつや水害など深刻な自然災害を引き起こしています。また、パレスチナやウクライナをはじめとする多くの国や地域で紛争が続いています。これらの矢面に立たされるのは、いつも子どもたちや弱い立場にある人びとです。

子どもが人間らしく幸せに生き、そして自分の可能性を伸ばしながら健やかに成長するために必要なこと、それが「子どもの権利」です。世界中すべての子どもたちに等しく守られなければならないものですが、生まれた国や地域、育つ環境によって、生存や成長、教育の機会にも格差があることは否めません。

折しも、こども基本法やこども大綱の成立を背景に、日本においても「子どもの権利」推進の機運が高まっています。今年度もユニセフ学校募金では、「すべての子どもに、を。」と空欄を設け、日本の子どもたちに問いかけています。この問いを、主体的で対話的な学びの糸口としていただき、空欄を埋める言葉を、「子どもの権利」の視点から考えることで、人権や「子どもの権利」に関する学びを深め、さらに、子どもたちが、持続可能な未来像をえがき、課題解決の力になろうという意欲をもてる教育に結び付けていただきたいと思います。

ユニセフ学校募金が、世界の仲間たちを支えると同時に、人権が尊重される持続可能な社会の創り手を育む大切な学びの機会となるよう、皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。



公益財団法人 日本ユニセフ協会
ユニセフ学校募金委員会委員長
高 須 幸 雄